

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

・サマーパーティ2003	1
・理事会報告	2
・海外ニュース	3
・お知らせ	4
・会員探訪〔新社長見参(1)〕＜新シリーズ＞	5
・新・パソコン外論考(其38)	6
・出版文化史逍遙(81) 洋書の歴史雑記帳 XXXVI 1..7	

JAIPサマーパーティ2003

2003年7月18日(金)

於 ホテルサンルート東京

JAIP 恒例のサマーパーティは、49社220名もの方々の参加者を得て、熱気の中で始まりました。今年は梅雨が長く、冷夏が続き、開催日の7月18日(金)も、鬱陶しい、どんよりした時折小雨模様の生憎の天候でした。それでも、会場のホテルサンルート東京3F〔芙蓉の間〕は、ベテランの方々に加え、若い人たち、女性の姿も増え、活気に満ちてる様に思えました。



パーティは丸善の中山さんの司会進行で、まず文化厚生委員長マーク・グreshamさん(UPS)の「今年は涼しい、ビール、エアコン、うなぎ業界は可哀想だが、お互いを助ける意味でも、心置きなくビールを飲



みながら話ができる様、そして、今年の阪神タイガースの様に元気を出して、楽しみましょう。」旨のオープニングスピーチで始まりました。更に、村田理事長(丸善)の「若い方々の力で、協会に対して、積極的参加や発言をお願いしたい。」旨の挨拶と「乾杯」の発声で、いよいよ佳境に入りました。今年は、多くの料理や飲み物が用意され、それらに手を伸ばし、口

に運びながらも、名刺を交換し、挨拶を交わし、旧交を温め、新しい知己を得、楽しい歓談の一時を過ごされていたようでした。その間にも、文化厚生委員会の方々の催事(釣り、ゴルフ、テニス、麻雀、囲碁)等



の紹介や参加の呼びかけがありました。更に、プレゼント抽選会が行われ、当選者の名前

が次々と呼び上げられ、歓声が上がり、拍手が起きました。今年いっぱい、業務を辞められるという石神さんご夫妻(アメリカ大学出版局)のお仕事への想い、



業界や協会への想い、謝意や期待が述べられ、そして中締めで、賑やかだったパーティも、盛況のうちに、お開きとなりました。

マーク・グレスラムさんをはじめ、文化厚生委員会の皆さん、そし

て司会進行の中山さんの、多大の尽力、奮闘に感謝しつつ、程よい緊張と心地いい酔いのせいで、スピーチやご挨拶、ご発言が、必ずしも、正確に報告できなかったかと危惧しています。



この洋書業界の不況、低迷をベテランの方々の力に加え、若い人たちの熱意と力で、少しずつでも、いい方向へ変えていたきたいと願いつつ、会場を後にしました。

(文化厚生委員HN記)

理事会報告

7月18日(金)

1. 2003・2004年度委員会編成

各委員会メンバーが確定し、新委員会が発足した旨の事務局長報告を了承した。

2. 2003年度委員会活動方針

広報委員会より活動方針が提出された。

以下の委員会より口頭による説明があった。

ホームページ・ダイレクトリー委員会

- ・コンテンツの充実
- ・印刷体ダイレクトリーの刊行継続
- ・広告料増収
- ・PC使用環境調査

事業委員会

・TIBF洋書バーゲンセール継続

・同様セールの追加開催可否検討

文化厚生委員会

・活動は例年どおり。より広く、多数の参加を求める。

3. サマーパーティ

文化厚生委員長および事務局長より以下の報告があった。

参加者：49社 220名(内女性51名)

ホームページ・ダイレクトリー委員会の呼び掛けにより、本年版ダイレクトリー広告出稿社の内非会員社5社6名参加(有料)



買収ビジネスなお盛行！

◆ Baker & Taylor ➡ Willis Stein

Baker and Taylorは、卸売業者としてだけでなく教育機関への販売、更にはインターネット上での小売も行っておりましたが、今般Willis Stein & Partnersに2億5500万ドルで買収されました。

Willis Stein & Partnersは一般消費財、メディア、通信、ヘルスケア産業などに投資を行っている会社ですが、BTの業態に興味を持ったようです。Willis Steinは40社以上に投資をしており、現在では30億ドル以上の資本を管理しています。

◆ Frank Cass ➡ Taylor Francis

T&F社は、英国の社会科学系の出版社として知られるFrank Cassを買収したと発表しました。Cassは60点以上のジャーナルを発行し、更に年間100点以上の新刊書籍を発行している出版社です。T&Fはすでに860点以上のジャーナルと年間2,400点以上の書籍を刊行する巨大な出版社ですが、今般の買収は単にサイズが大きくなっただけでなく、質的な向上も期待しているとのこと。

Cassの売上は380万ポンドでそのうち70%はジャーナルからの収入で、利益は40万ポンドといわれています。T&Fはこの買収に総額で1,500万ポンドを要したとのこと。

今回の買収でも明らかになったように、中堅の出版社は大きな投資と継続的な進展に対応せねばならない電子的な環境の整備ができないため、大手の出版社に売却せざるを得ない状態にあるようです。

◆ Sage Pub.がCSAから5誌を買収

Sage Pub.はCambridge Scientific Abstractsから図

書館および情報関係の5誌を買収したと発表しました。タイトルは次の通りです。

- ・ Journal of Information Science
- ・ Journal of Librarianship and Information Science
- ・ Journal of Commonwealth Literature
- ・ Information Development
- ・ Business Information

ASA News, Issue 83 & 84, July 2003

<提供：ユサコ(株)/ウェヴサイト・ニュースの欄でもご覧いただけます。>

◆ Frank Cass と Taylor & Francis 間の交渉

学術出版社Frank Cassは、今週Taylor & Francisによる買収オファーを受け入れ、その50年におよぶ独立出版社としての歴史を終える。73歳になる創業者社長Mr.Frank Cassは、この買収交渉が早められたのは、大規模書店における昨今の小売販売状況によるものとしている。「我々がこれら大規模書店に食い込むことは困難な状況にあり、Taylor & Francisならそれが可能だ。チェーン販売および弱小小売店についての新たな価値観、新しい形での検閲とも言えるそれは、販売可能か否かを判断される以前に、各社の出版物をふるいにかけてしまうのだ。これは文化的な意味での検閲とも言えるべきもので、社会にとって良いものとは言えない。」買収金額として、先ず950万ポンドが支払われ(備蓄キャッシュ180万ポンドを含む)、今後のターゲット達成状況により370万ポンドが支払われる予定。

the Bookseller.com Informer AUG 01, 2003

◆ インターネット販売の増加と書籍販売

つい数年前まで、書籍という商品の特性から見なされてきた直観<この550年もの歴史をもつ媒体が、インターネット上で販売されることは無いだろうというもの>は、現在ではすっかり覆された。そればかりではない。Forrester Researchによる予測では、2008年にはオンライン小売販売の売上は最高2,300億ドルにまで達し、総小売販売の約10%を占めるだろうとしている。この成長産業のなかで、書籍はオンライン販売の最も重要な要素であり続けることは無いだろう。2000年現在で、オンライン販売の14%を占める書籍

だが、2008年にはその割合を3%まで落とすだろうと予測されている。Forresterによれば、今後5年程の間に、最も著しい成長が見込まれる商品は、食品およびスポーツ用品だという。

PW Daily AUG 05, 2003

◆ Amazon.com の新ビジネス

オンライン書店 Amazon.com は、Questia や Ebrary が行っているビジネス<書籍をスキャンして検索可能な形式に変換するもの>に参入する。The New York

Times の記事によると、Amazon.com の戦略は、出版社に交渉し、「何千タイトルという」ノンフィクション書籍のデジタル化権利を買い取り、そのコンテンツを検索可能な形式にするというもの。Look Inside the Book と名づけられたこのプログラムは、書籍の数ページ(表紙、裏表紙、目次、索引、サンプル・ページなど)を画像化する Look Inside the Book を拡大させたもの。これにより変換されたデータからは、キーワード検索や本文中からキーワードを含むタイトルを抽出するなどの作業が可能となる。

PW Daily JUL 21, 2003

お知らせ

新会員を紹介します

会員社名：株式会社 日本文献出版

住 所：千葉県松戸市上矢切 381

Tel : 047-312-2201

Fax : 047-312-2202

代 表 者：代表取締役 齋藤純生氏

主要事業：日本近代史資料の英文翻訳出版

入 会 日：2003年8月1日

会員資格：賛助会員

新シリーズが始まります

会員の皆様にご寄稿いただき 1992年1月号より不定期ながら連載して参りました会員自己紹介コラム「うちの会社」は、お陰様で加盟会員をほぼ一巡しました。

この度これに代わる新シリーズ「会員探訪」を企画しました。会員の皆様のもとへお邪魔して色々なお話を伺い、インタビュー記事として連載して行きたいと考えています。

より良い会報作りのために、皆様のご意見、ご提言をお寄せいただければ幸いです。

〔会報委員会〕

事務所及び物流拠点を移転しました。

会員名：丸善株式会社 学術情報ナビゲーション事業部 商品本部

〔企画開発部〕〔e・プロダクツ部〕

〔外国雑誌部〕〔仕入管理部〕〔本の図書館〕

新住所：〒103-8245

東京都中央区日本橋2-3-10 丸善ビル9F

Tel : 03-3272-3851 Fax : 03-3272-3920〔企画開発部〕

03-3272-3878 03-3272-3922〔e・プロダクツ部〕

03-3272-3884 03-3272-3923〔外国雑誌部〕

03-3272-3871 03-3272-3902〔仕入管理部〕

03-3272-3890 03-3272-3904〔本の図書館〕

業務開始日：2003年6月23日

〔洋書部〕

〒210-0833

神奈川県川崎市川崎区桜本2-32-1

佐川物流サービス(株)(川崎SRC)4F

Tel : 044-271-4774 Fax : 044-271-4779

〔採用品センター〕

Tel : 044-271-4775 Fax : 044-271-4780

2003年8月11日

新社長見参（１）

（株）LWW医学書院 代表取締役社長 太田之憲さん

2003年3月末に西澤前社長の後をうけて就任された太田新社長を、本郷の社屋にお訪ねしお話を伺いました。因みに、LWW医学書院は1990年に医学書院、Mosby-Yearbook及びWaverlyの3社合併により誕生した医学書院MYWがその前身、1999年に合併先がLippincott、Williams & Wilkinsに変わると共に現社名になりました。荒木さん、西澤さんに続いて太田さんは三代目となります。

さて、太田さんは異業種からの転身と承っていましたので、そのご経歴と当業界へお入りになるきっかけ等を先ず伺いました。

現在の社業の主力である“医学”と最初の関わりを持たれたのは、外資系のさる医療機器メーカーで営業を担当された時で、日常の営業で面談する時と異なり、患者の痛みを和らげ、命を救う為に医療機器について議論される時の医師の先生方の真剣かつ情熱的な姿勢に大きな感銘を受けられたそうです。医学・医療に課せられた使命の大きさを思い知らされたことが、この洋書業界に入る伏線になっていたかも知れない、と仰っていました。

社会人のスタートは？と聞いてビックリ。「クボタでトラクターを売ってました」。田んぼで颯爽とトラクターのデモ運転をされている姿をすぐ想像しましたが、営業の現場はオーストラリア、スペインだったそうです。「ここでの仕事を通じて得た最大の収穫は、事を進めるに当たってはとことん議論することの大切さを学んだことでした」とのこと。メンバーの上下関係やお互いの立場は二の次、どんな議論をしても追求する目的を共有する限り人間関係を損なうことにはならない、とも。事実、当時のオーストラリアのスタッフとは、今もお酒を酌み交わすお付き合いが続いているそうです。

医療機器とトラクターの販売などを20年余経験さ

れた後、調理用オーブンの販売会社社長を経て、この春現職に就かれました。

最後に就任後数カ月の間、わが洋書業界をどうご覧になったか、また今後の抱負について伺いました。

「インターネット環境が次第に整備され、オンラインによる情報の授受が日常生活の一部になりつつある現在、情報を手っとり早く入手し、利用することが出来るが、一方でその情報を掘り下げ、じっくり吟味するための媒体も必要なのではないか。その一つとして本・雑誌への回帰が十分期待できると確信しています。ただし、その吟味に耐えるコンテンツを出版社は用意しなくてはならないし、自信をもって研究者にお勧めできる商品知識を販売者は収集・蓄積しなければならないでしょう。商売の芽は社の外に沢山ある、また人と人との関係を築くことが商売の基本であるというのが私の信念、わが社の社員の皆さんにはこのことを理解し、実践して欲しいと思っています。」

お話の途中で、久しく耳にしなくなった“見計らい”の言葉が飛び出してきて二度ビックリ。「トラクターのデモ運転同様に、買っていただくためには説明書やカタログで売り込むことも大事だが、現物に手を触れて確かめていただくことが重要な決め手になると思う。時流に逆行するかも知れないが、洋書の伝統的な商いを一度見直しても良いのではないか。」同じ“見計らい”でも、何か別の切り口をお考えになっている、そんな期待感を抱きました。

最近たまたま一緒にしたテニスでは、180cmの長身から繰り出す強力なサービスとストロークにすっかり翻弄されました。オーストラリア駐在中に現地の人々との交流を深めるために、それまでの日本人同志のゴルフ付き合いを止めて始められたそうです。昭和28年生まれ、社会人と大学生の一男二女の父、スポーツマンで、声大きく、お酒にもちょっとうるさい、豪快な新社長です。

〔文・写真共高橋 紘〕

新・パソコン外論考(其38)

宇田川一彦

New York State of Mind/大好きな、ニューヨーク

■(・子曰、・点爾何如、)暮春者、春服既成、冠者五六人、童子六七人、浴乎沂、風乎舞雩、詠而帰、

'The Master said,Tien,how about you?' " In late spring,after the spring clothes have been newly made,I should like,together with five or six adults and six or seven boys,to go bathing in the River Yi and enjoy the breeze on the Rain Altar,and then to go home chanting poetry."

(論語/先進篇・Confucius:The Analects / BookXI)

【超拙意訳；(先生が、言われた。点(曾皙)、どうする、君は?)「晩春には、春の着物もちゃんと仕立て上がり、元服を終え冠をかぶった成人5、6人と元服していない童子6、7人と共に、沂水で水遊びをし、雨乞いの祭りの土壇で、風に涼んだあと、歌を口ずさみながら帰ってきたいと思っています」

【外注：先号からの続き。曾皙は当時61歳。それまでは、ハープのような多弦の琴を、静につまびいていました。君は?と、尋ねられて「今までの3方とは違いますが・・・」答えました。孔子は、「いやかまわないから、言ってごらん」と促されてから、答えたのが上述の一文です。次号で、孔子が即座にコメントしたところを紹介したいと思います。】

Personal Computer と Software について - 1 -

筆者のメインマシン (Personal Computer) は、かつて既述したときと変わらずCPU (Central Processing Unit = 中央演算処理部) は、IntelのPentium4の1.6GHz、約2年ほど前、最速のものでしたが、いまはもう2.XXGHzになってます。ちなみにGHz (1ギガ = 10億) は、Giga Hertzの略で、1秒間、10の9累乗倍 (ten to the ninth power) の動作周波数で処理をおこないます。といっても、いまはもう、2世代前のCPUになってしまいました。現在の最速のCPUは、たまにチェックを入れに行くアキバのショップでデモを見ても、筆者には、目を瞠るというよりは、「ちょい速い」といった程度にしか感じられません。と、慰めながら、いつも帰途につきます。

OSは、WindowsXP - Homeeditionの一番初期のもの、バグを内蔵したままのものです。したがって、イ

ンターネット用のbrowserとmailerは、標準添付されていたIEとOutlookの組み合わせを一度も使ったことはありません。当初は、Netscapeを使用、後にOperaの6.3に、そして、現在はOperaの7.3です。

周辺機器 (Peripheral device) には、Printerが2台。Laser (モノクロ・LP-1200、接続はUSB) と、カラー (EpsonのPM-970C、現在980Cとgradeup) です。スキャナーは、GT-9700F、(現在9800Fとgradeup) ほかには、pointing-deviceには、マウス互換のペンタッチのボードを使っています (ペンの軽さと握りぐあいが、いまいち人間工学的には、ペケなのですが)。

以上の機器構成で、本稿を文書作成ソフト (統合ソフトで、フリーソフトのOpen OfficeとInput Methodには、VJE delta (ver.4.0) の組み合わせで、本稿を執筆いたしております。次号で、原稿作成とinternetによる原稿送付の手順にふれてみたいと思います。

Internetについて (博物館海外編-New York 7-)

アメリカ自然史博物館 (American Museum of Natural History=<http://www.amnh.org>) の続々です。

▲自然史博物館の4階の恐竜から脊椎動物を堪能した後、1階にまた、舞い戻りました。セントラル公園西側からはいると左手の一番奥のRoss Hall of Meteorites (ロスホール・隕石) をのぞきました。いちばん大きな隕石は、1894年グリーンランドで発見されたもので、34トン、自由に触れます (撫でてきました)。隕石と月の石あわせて約120個が展示されています。かつて取材した、神奈川県立生命の星・地球博物館 (<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/museum/g.html>) の玄関入口のすぐ横にも隕石があり、触ったことがあります (前号の福井・恐竜博物館と同様に非常に薄暗かった印象があります。ちなみに、生命の星の前館長が、この恐竜博物館の館長でもあります)。

この隕石ホールのと年には、Guggenheim Hall of Minerals (グッゲンハイムホール・鉱物) と一緒になってMorgan Memorial Hall of Gems (モーガン記念ホール・宝石) の部屋があります。重さ2トンの銅の鉱石や世界最大の約560カラットもあるスター・サファイア「Star of India」に目を瞠りました。

そしてコーヒーをのみに、同じ1階の西77丁目の出口専用玄関のカフェに行く途中で、Northwest Coast Indiansの約20メートル近いスギの巨大カヌーを眺めました。 (この項続く、乞ご期待)

洋書の歴史雑記帳〔XXXVI〕キリシタン版の原書(10) 鈴木 陽 二

長崎(4)

今まで触れなかった重要な長崎印刷のキリシタン版を、幾つか選んで紹介することにしたい。

日本イエズス会のもっとも有名な出版物の一つに、『サカラメント提要』があるといわれている。原書は輸入されたものではなく、日本司教ルイス・デ・セルケイラが日本の事情を踏まえて編纂した典礼・儀式(定式)書で、司祭用のためラテン語で1605(慶長10年)に印刷された。ミサ典礼書は1570年に『ローマ・ミサ典礼書』が成立して1572(元龜3年)には日本にもたらされ、これに基づいてラテン語でミサが上げられ、諸宗教行事が執り行われた。本書は、日本で東洋文庫と上智キリシタン文庫が所蔵しており、外国でも4書見在している。

ほかに日本に現存するものに限って挙げてみると、島原松平家旧蔵書で古書店を経由して天理図書館が収蔵した『おらしよの翻訳』(1600=慶長5年:漢字交じり平仮名、祈祷書)、キリスト受難史を記した『スピリツアル修行』(1607=慶長12年:ローマ字、信心書)は大浦天主堂の所蔵、聖僧やアリストテレス・プラトンなど古代哲学者の著作、ホメロスの抜粋、聖書、などから集めた金言名句集の『聖教精華』(1610=慶長15年:ローマ字、教理書)は東洋文庫の所蔵、などが長崎で刊行された。長崎における出版の大きな成果には、宗教書だけではなく語学関係書と日本の古典文学の印刷がある。『日葡辞書』(1603~04=慶長8~9年)、『日本大文典』(1604~08=慶長9~13年)、漢字の読み方と字形を知るための辞書的な出版物『落葉集』(1598=慶長3年)、『倭漢朗詠集』(1600=慶長5年)、長崎刊行と推定される『太平記抜書』(1611/12=慶長16/17年頃)などが、刊行された。

徳川幕府による1614(慶長19年)のキリシタン大追放によって日本の活版印刷は終焉する。宣教師やキリシタンが日本を去るとき印刷機と活字は、やはり追放の処分を受けて長崎を旅立つ高山右近の荷物に紛らせて辛うじて持ち出したという。その後、この印刷機を使ってマカオ、マニラで引き続きキリシタン版が4点印刷されている。グーテンベルクによって発明された活版印刷機が、1590(天正18年)に日本に持ち込まれてから1614(慶長19年)まで、ほぼ24年間に

およぶ精力的なキリシタン版の上梓は、世界の先端に伍す印刷文化だったし、また印刷の対象になった高度な学術書・宗教書を輸入し翻訳を行ったことが、驚異的な文化的事績として忘れる事が出来ない。

幕末に長崎においてキリシタン版の書写が行われたり、またキリスト教関係の書籍が幾つか印刷されたので、その点にも簡単に触れておきたい。

ペリーの来航が契機となって開国が進められ、宣教師が次々に来日するようになった。その中でフランス人イエズス会士B.T.ブティジャンは、幕末キリスト教布教でもっとも大きな活動を行った宣教師の一人だった。大浦天主堂を創建し、浦上で長い間潜伏していた隠れキリシタンの復活の歴史的な瞬間に出会った。幕末・明治初期におけるキリシタン弾圧は過酷なもので、浦上地区の隠れ切支丹が弾圧された、いわゆる浦上崩れはキリシタン殉教史上有名な出来事で、苛烈なものだったという。浦上を端緒に長崎(肥前)のあちこちで隠れ切支丹が復活し、弾圧された。例えば五島崩れと呼ばれた弾圧では、捕らわれた200名が久賀島のわずか6坪の掘建て小屋に押し込まれて8ヵ月を送り、次々に十字架にくくられたまま海に立たされ、潮の満ちてくる酷寒の荒海に死んで行ったという。「牢屋の窄」と呼ばれたこの牢獄で42名の死亡者を出した殉教は、幕末から明治初期の、もっとも悲惨なキリシタン弾圧の一つだった。久賀島は平地のほとんどない山ばかりの島だが、「牢屋の窄」は海を望む高台に置かれた。今は小さな礼拝堂があって、その横には殉教者の墓石が並んでいるが、そこから見下ろす荒涼とした海景の広がり、気が滅入ってしまうような悲しみを覚えたものだった。五島の殉教は実に凄絶なものだったが、福江島、久賀島、奈留島など、殉教の故地やかつての隠れ切支丹の集落にひっそりと立っている小さな教会堂を一つ一つ訪ね歩くと、西海の冬の淡い陽光の中に広がる景観に、悲しい歴史の幻想がない交ぜになって、たまらない索莫とした気持ちに襲われる。〔参考文献:青山敦夫『活版印刷人ドラードの生涯』/マイケル・クーパー著・松本たま訳『通辞口ドリゲス』/天理図書館『富永先生古希記念 きりしたん版の研究』/片岡弥吉『日本キリシタン殉教史』『長崎のキリシタン』〕 (元丸善・本の図書館長)

The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE

本誌は190年にわたる歴史を有しており、世界でもっとも高く評価されている医学雑誌の一つである。毎週、最新かつ重要な研究論文を発表し続けており、その影響力は多方面にわたっている。

世界各国、合計25万人に利用されており、世界の医学の最先端を知ることのできる、もっとも信頼できる確かな情報源となっている。

日本国内版には1996年1月初号より主要論文の「日本語アブストラクト」が、1997年1月初号からは「日本語目次」が掲載され、多忙な医師の方々も必要な論文に簡単にアクセスできるようになった。さらに2001年2月号からは「今週の本誌」の掲載が始まり、本誌掲載の主要論文の内容が一目で理解できるようになった。



**Subscribe Today at Absolutely No Risk.
Your Satisfaction is Guaranteed.**

- 2003年 (Vol. 348~349) 週刊
- 年間購読価 (税別)
¥31,000 (個人) ¥75,000 (団体) ¥20,000 (レジデント・学生)
(レジデント・学生でのお申し込みには証明書が必要です)
- 専用バインダー<1年分> ¥7,600 (税別)

JOURNAL WATCH

- ▶ 毎号8頁のNewsletterなので短時間で通読できる。
- ▶ 毎号平均25論文の要約で最新の知見を知ることができる。
- ▶ コンサイスな読みやすい英文のテキスト。
- ▶ 選択と編集は厳選に: 第一線で指導的立場にある医師チームが論文を選び要点をまとめる。
- ▶ 多忙な実地医家の方々にもっとも興味深い論文を選び抜いている。
- ▶ オリジナル論文の出典が付されいつでも原論文を参照できる。
- ▶ 前月はむろん同月発表の論文もJOURNAL WATCHに掲載。
- ▶ JOURNAL WATCHは月2回発行: 南江堂が航空便にて取り寄せ。

- 2003年 (Vol. 23) 月2回発行
- 年間購読価 (税別)
¥22,000 (個人) ¥40,000 (団体) ¥13,000 (レジデント・学生)
(レジデント・学生でのお申し込みには証明書が必要です)
- 特製バインダー<1年分> ¥3,900 (税別)



日本総代理店 (株) 南江堂洋書部 

〒113-8410 東京都文京区本郷3-42-6
Tel (03) 3811-9950 Fax (03) 3811-5031
e-mail nkdyosho@nankodo.co.jp